

看護の質の向上に努めて 人間の尊厳を重んじる支援を



金沢大学附属病院
副病院長・看護部長
辻 千芽氏

1990年 金沢大学医療技術短期大学部看護学科卒業
金沢大学附属病院に勤務
2002年 金沢大学附属病院副看護部長
2011年 金沢大学附属病院看護部長
2014年 金沢大学附属病院副看護部長

2017年 金沢大学附属病院看護部長
2022年 千葉大学大学院看護学研究科
看護システム管理学専攻修士課程修了(2019年～)
金沢大学附属病院副病院長・看護部長

毎日約1500人が受診に訪れるという金沢大学附属病院は、自他ともに認める北陸の医療の核。大病院を支えるナースたちの統率や育成を進めつつ、人間の尊厳に配慮した看護を追求する辻看護部長にお話しいただきました。

広く地域の人材の育成から働きやすい職場づくりまで

本院の看護部には1000人程が在籍中で、20〜30代が約8割を占めています。この世代はちょうど出産や育児による休業者も多く、現在実働している看護職は約850人となっています。

北陸の医療の中核となる大学病院ですから、看護部の役割も多岐に渡ります。高度先進医療にふさわしい看護の実践がまず求められますし、地域貢献という使命もあります。また教育や研究の機関でもあります。こうした環境を下に質の高い看護を追求しています。

人材育成は、看護部の重要な仕事です。環境が備わった本院では、院内外の看護師に向けた諸研修が

同時行われており、歴代看護部長が築いてきた教育制度を生かして、新人の実践的研修からがん看護など専門性の高い研修まで、学びの場を幅広く提供しています。

また、働き続けられる環境の整備も重要な任務です。第二中央診療棟の完成が間近で、新たな診療の拡大に合わせて看護体制を整えているところですが、看護補助者の活用など業務の改善に励むとともに、ナース各自のライフイベントを支えながらキャリア形成に繋げる支援などにも注力。さらに、対話を促して心理的に安心な職場づくりを進めたり、こころに残る場面を通じて看護という仕事の大切さに想起させたり。やりがいを感じられる職場づくりにも力を入れています。

倫理的感受性を高め思いに寄り添える看護師に

高度急性期医療を提供し、県がん診療連携拠点病院の役目も担う本院には、重症の方が大勢います。管や機器に繋がれて身動きできず、不安がる方。時間的猶予のない中で選択を迫られる方。がんゲノム医療の発達で将来かかりそうな病気がわかり、発症に怯える方…。

医療がどんどん高度化していくそんな時代こそ患者さんの思いに添った温かな看護が必要です。たとえば現在、入院前から退院後までを外来で病棟看護師も担当できる体制を整えています。患者さんが自分の人生にふさわしい治療が選べるような支援や不安の軽減、また重要な局面で適切なサポートが行える看護を心がけています。

それにはナースの相手を尊重する感性が欠かせないのですが、一朝一夕で身につくものでもなく、患者さんとの関わりの中で自らの行動

を考え、経験を積み重ねて深く培う過程が必要と考えます。患者さんに向き合う機会をできるだけ捉えて思いをくみ取る力を育むと同時に、他院の医療者の方々の臨床倫理事例研究会を通して様々な価値観の共有を図っています。看護の質を高めるのは患者さんのため。良い看護とは何かを考え続けながら、思いやりと礼節と知性を備えた看護師を育ててきたいと思っています。



コロナ後に再開した活動の見直しを副看護部長とともに